二十
加藤ゝ孫
中村俊定文庫
文庫 18
439

俳諧葛藤（カツラフジ）巻首　靈島　角醒秀億著

文政丙戌季春朔日向亭
南極樹下月樵庵校

玄旨法印曰古歌をよみ侍るに数をよるあり　我か義理を
とりて趣あるもあり　あまぬるをつゝみて分別すへし　是これ
長短得失子究る敎なるへし　五雜爼に千古稱美なる
在峯（アゲ）て吾をすて信服破竹のことし　亦脩短得喪を
存（タメス）りのへし

○古人の俳句を見るも亦志ありいくらも我か義理にあり
古今人心一致して違ふ師に問師よく正邪を纏（タヾ）さるを
故人の句を鑑（カヾミ）とすへし　棄（スツル）まへし　長守談て（明ノ誤カ　鴨氏　十九丁）
出されさる夏れすとのありて　今もすさあれすさ侑
の云や（無名ニ作ル）　十二まなる女児これを聞て久しれすとの
ここて出るものハ今すこし走き侑しよれなと

さふらひ[illegible]

○ [illegible] 一い葉 門も 大井[illegible] 桂[illegible] 沾徳

切字[illegible]

[illegible]

○万葉[illegible]無心所着の歌[illegible]

吾妹兒之額爾生流雙六乃事負乃牛之倉上之瘡

吾兄子之犢鼻爾為流都夫禮石之吉野乃山爾氷魚曽

懸有 サカレル

いにしへ[illegible]

俳諧[illegible]宗[illegible]宗因

[illegible]句を[illegible]孔

○福寿草[illegible]草[illegible]

ある醫[illegible]

す黄華[illegible]

寒[illegible]

種[illegible]

[illegible]

○故人字解[illegible]句[illegible]

[illegible]

[illegible]

延宴[illegible]

○[illegible]の言葉[illegible]芭蕉[illegible]句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝ[illegible]こゝ[illegible]れ面白[illegible]氣味を今[illegible]
則[illegible]いとゝ

○漢武帝羣臣の曰相書の説に人中[illegible]
こゝ[illegible]八十年百歳東方朔側[illegible]生て大[illegible]笑
[illegible]不敬を奏[illegible]方朔冠を免て[illegible]
て陛下を笑[illegible]彭祖を笑彭祖[illegible]百歳
陛下の言れ[illegible]彭祖[illegible]人中[illegible]八寸
[illegible]これを以推之彭祖[illegible]面長一丈餘帝
大笑

○世説載左太冲[illegible]都賦世[illegible]稱[illegible]
謚[illegible]感美[illegible]序[illegible]
舉[illegible]

さ[illegible]謚[illegible]廣[illegible]

○昔[illegible]上[illegible]或[illegible]の[illegible]
[illegible]用[illegible]稗官[illegible]狂風猛雨面を[illegible]
て刮[illegible]冰雹ハ蝗の飛[illegible]兵兵兵兵
[illegible]兵兵兵兵[illegible]
[illegible]或博識[illegible]
兵[illegible]假借[illegible]

○源氏[illegible]
[illegible]讀[illegible]
[illegible]柳[illegible]
の[illegible]人の[illegible]

なるものいろいろあやめもまちまちに行
かるべきことなれば此もまんさのの器式
調度ことごとうまんわるもとくとくなき
教訓なり

○實に此のもしし佛偕特節なりて生ける
其度檀林もまちまちて曲節まちまちなる事
なりなれどそれらも進て正風に
近むは是ぬ古風畫二世まちまちなる
きもの其角嵐雪を始めその外は佛士なる
ようなる古風のこと以て芭蕉風の檀行
まもなきはいまだ三十年前世の亂世合と
いへるこれもまた世の風俗

○俳諧の肝要とする和時宜禁忌
はもとより無をもを信敬し是を祈り備
うるは祈ふ礼翹鏡物識所宜　列子

○運氣論載土無正位各寄王於四季之末一十八日
有奇註八十七刻半　大槩十九土用いしかへ

○劉伶酒德頌うる大人先生の託て醉中放
逸を基に二真家侍側爲如蝶贏之與鯤鈴
忘不禮の文蔑信謂七人放曠荒醉賢とす
屋ぬ抑擾もるへ

○四人酒量す其妻使もる諫いそ爾いあ
可ぬ今より酒を斷むと吾一ぬる正ぬ
神る盟もその設せらるる妻節則靈ぬを

うゑく酒肉を奉て盟しむ盟ていはく天地なりと
吾劉伶在性酒を嗜天亦吾こゝろ予ひとりを降ぶる
へらん妻諫て酒こゝ肉こゝを棄て進むこゝをおも
いてなまこゝ喫す

○或人西山宗因と俳諧のこゝ婦を訊宗因こゝ連歌
のもさこゝ会定こゝ昔昌琢新式講也
こゝ何こゝ何い婦こゝや它ハ准こゝあこゝ
こゝう大こゝこゝの准こゝ其准人の方
よきかこゝ学ぶ者ハ学ぶ者のうこゝを俳諧の
さこゝ合も亦これこゝ准こゝ

○井蛙抄曰故石部中ものしるハ貫之の撰ものる
ものの中風の方風俗西こゝめこゝれこゝ

是をハ知ある歌ハ中ものの遍昭僧正ものの時
めの中詠ものたこゝもものこゝ孫こゝれこゝもものこゝ
家こゝうめこゝをたこゝてものあこゝりん是こゝを元なる
方のこゝものこゝものこゝ知こゝ

○又家隆ハ宗蓮の婚こゝ宗蓮お具こゝものこゝ
入道和歌門ものこゝ禅門こゝ曰この仁
ものこゝの方風こゝこゝ尼寺のこゝ歌ものこゝ
りものをハ問いりも哥
いのこゝ問こゝて詩感こゝ
哥こゝう組たこゝる歌こゝ

○又徳大寺こゝハ歌の問こゝ所こゝ

德大寺左府西行と對面されしを訪て一案
法師を左大將家六百番歌合の時左右人数
四人まつて評定を加へて左方勝を立
負腹の人数ふまの日あり宋遠顯昭
毎日まいりていさうしを取て
獨鈷を打うち宋遠ハ西行をもてなさ
うとまうり厨中の女房例の獨鈷種貢と
名つけられきうとうし
○又高雄の文覺上人哥五首所詠京極禪門の
詠ものうらまるこかとも珍重也佛法練行の心
和歌を通するのよし記録に被書載うし
○むうしハ小みは筆あるも獨の石を鑽しるとうし

法師を左大將家六百番歌合の時左右人数四人まつて評定を加へて左方勝を立負腹の人数ふまの日あり宋遠顯昭毎日まいりていさうしを取て獨鈷を打うち宋遠ハ西行をもてなさうとまうり厨中の女房例の獨鈷種貢と名つけられきうとうし

○又高雄の文覺上人哥五首所詠京極禪門の詠ものうらまるこかとも珍重也佛法練行の心和歌を通するのよし記録に被書載うし

○むうしハ小みは筆あるも獨の石を鑽しるとうし

陸案此論大非違籍白眼茂視礼俗之人親任文雅之士非與肺金肝木之說可排笑

金うう今は鴨廬ハ瑞堅社宅の跡に近所なるうの方六寸所の石版瑞堅墓之の語を模して指を結ぶるもの前段略ハ義ハ命ハなるとて攝ある攝ハ有略ハ

○昔の院籍う青眼白眼ハ書信ハ白眼ハ肝ありさうとうしハ眼ハ疾ありて魅ハ立ある肺金ある疾をもうさるかこの人ハ陽なるうんいうんを他を攝の標うもん証あう云ハ陸士衡笑疾

古人今一人而已

○新今の判讀ハ他を初もうとうも悔を論に又異國の書を批点のうし事をうう又

[illegible]仏[illegible]異く判を諍論[illegible]
[illegible]義を是[illegible]仏を辨[illegible]銘
人[illegible]謂[illegible]故人道[illegible]
○[illegible]長[illegible]短[illegible]厳重[illegible]
[illegible]
○治徳[illegible]夏[illegible]花[illegible]久[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○[illegible]前豫州[illegible]
京都[illegible]諍[illegible]義行[illegible]
[illegible]名[illegible]或人云

義行[illegible]
[illegible]義顕[illegible]
○神[illegible]社考載牛頭天[illegible]告[illegible]曰我眠を好[illegible]
[illegible]五日[illegible]五月五日[illegible]
[illegible]初起天[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
○仏[illegible]措[illegible]
止め[illegible]

[illegible]

○所[illegible]

今[illegible]

[illegible]

山川草木[illegible]

[illegible]

○禪家一の問[illegible]

[illegible]

彼を移し彼を[illegible]

[illegible]

惡微以爲知者

○度[illegible]世人身長九尺十尺[illegible]度考曰史記項籍長八尺餘漢書八尺貳寸荀勗云尺[illegible]撫八捌尺貳寸今の伍尺玖寸當る魏梠[illegible]

[illegible]又曰馬八尺以上を駿七尺以上を騏六尺以上を駒[illegible]馬[illegible]指[illegible]陸尺

今世肆尺三寸六分七釐七毫今世俗以肆尺爲馬尺者本此[illegible]

○量考曰劉伯倫一飲一石今世一斗零三合餘李白

一斗は百篇焦遂五斗方卓然一斗は今の
壁升一合伍升は今の二斗零陵合普唐升也
○衡考曰魏志典韋形貌魁梧膂力過人好持
雙戟與長刀等八十斤古稱の八十斤今の二十
七百匁斤二斤は今の廣頭數斗米因十斤
古稱の十斤今の百七十匁古の斗第今の
八合九勺の事なり又安孫山肥重稱三百五十斤
孫山は唐人なり三百五十斤は今稱の二斗なり
今人の重は百斤為準孫山は人半は重
○定家卿曰仙人なる人の八十なる人なる
なりなる仙は後の仙なり家道真も
是なる人なる一なる九なる

○又曰ふまの巫女なる人なる
かみなる人なる方なるのなるなる
なるなるなるなる合さるなるなる
なるなる
○禪は肌袴なり犢鼻禪は今いまする服ひきの
類なり或なるの説なり犢鼻は陽明胃經
なる三里の上峰なるあるなるなる
なる
○磁石は陽を感て南へ鍼なる
なる指南車なる
○汝は和漢通なる上へなる廣歳
古語拾遺曰太玉命以廣厚稱詞啓曰五百之所樹宝鏡明

麗恰如汝命 下略 又詩大雅曰伴奐爾游矣優游
爾休矣豈弟君子俾爾彌爾性似先公酋矣 註康公
ノ作ニテ爾ト君子ト皆指王 又大貴已上ノ稱
想ヒ
○齊威王淳于髡ヲ酒ヲ賜フ問曰先生飲ヒ
幾斗ニシテ醉フヤ髡曰臣一斗ヲ飲ヒテ醉フ
一石ニシテモ醉フ一斗ヲ飲ヒテ醉ヒ
ヒ後醉ヒテ中ヘ
五六斗ニシテ醉フ
醉ヒ
○盞一石ノ飲ヲ
○主人酒過タルヲ

先達ちかくは身をすてこのよを經へしへ
故に佛法は智慧佛學なり遠く喜ぶ謂也
○明人妻の外に淫する者をもてこれを図て
烏龜とす龜は交ことを能はず牝なるものを
縱ましむ蛇と交ましむみことを汚穢の化と
いふ言ハ人倫の其孝弟忠信禮義廉恥ものの
倶に亡る所なり比同に於ては主をシツハと
いふ言ハ人倫に亡ぶものの亡るる
や否ハ
○切手壺鄙は漏刻をつかさる職原抄に昔
智者貴氏漏刻を構つる巧精絶妙年
の後貴氏死漏刻不鳴ことを人皆驚之
さはは樹を種ふる人死して樹枯ることを忘
はは尺る勿論前草木也
鄙ゆ
○司馬相如は蘭相如をまねしる人なり維摩
の經摩を慕ひ摩詰とは号して画像
也維摩と號すること成人を病ふ達摩
亦事同日北を遂ることとうとうとこれ北鑿と
ちくちくも
○霜月北事の寒苦なるものの尺人なり
の大雪北節なる不鳴鼠鳴北候をのの
ものやうなるものは成人謂寒苦を佛之義
ちのあ成人也とこれ風をきく詩を

起まる処因まりの寒苦鳥を名まうて寛[カン]なる孫と
寒に苦しむとまりまる謬[ビウ]なりも自ら先人をひるる
昔北面の大九郎北北とし佛ある人といまく
先人を漢の對面せる孫ハなる這簡寒苦鳥
捨五のとすや我が人をまるを松事に
読とる三門徒昔在ハ一棒を喫し
さて付麿是佛書答いまく寒苦鳥

○略長明歌

万[マン]ものもみの七面のきよ世界自身をまるを立[リウ]
孫てまてすむ自の人をまうの流をまるの信[シン]
なるまるとなきしまきまれを對しまるの名
奇まる次

世まるまるや毎分別なるれる所
こまる歌合しまて普まるいまる
八まる世物まる 霜降の夜 湖北隠
物いまこのまを秋の夜北月 地の下
海ふあしと 袖 袖まる湊波 たまる花の
まるまる世袖 付まるなく色と声まる明る
世まるの世まるすの月屋の月の色の
まるまる世まるふ六まるまるこまる 俳諧
亦自まるまる

○世まる北自ハ俗語のまるまるまて定角色まる
関まるの是今和漢のもの人格寛故位を賜
の世をまてこまを仕るもあり故まる冠[クワン]語

まるまきの分を云へ〳〵み初会の人員會
をしてしを分あるを問さくも中の年〳〵博ら後て
置止ことを浮すおしるとあるの故人をあ
○井蛙抄に民部卿入道日真祝うとやらむ
との世落魄せしを聞て人を賀して笑
るをみをを旨説を百首なと詠も
仏ちを三十首平ふ故事事慶をとらも
をあるを十首をを百首の故事
なるを仏くを我他意をして詠ををふれ
ものをあるを仏をつるあるをみ復を
のをりもををこをを傳をを形を
こををふををを仏屋をあをを自多いをるを
をいをふ

俗談平話ををを仏屋きこをあををいをを
○みを主北氣をあををををををををををを
ををををををを示形を題を趣自然合ぬ
ぬををををををををををををを遠をを
陰形をるを遠をををををををををを
○をををを雨中をを夏北屋北日を遠を
あををの梅をを芒種の後の壬日をあをををを
生梅をを黴濕の黴をを梅ををあをを
いをを又江南毎歳三四月霪雨をを百物
黴腐を俗を梅雨を梅熟す故をを
をををを保津をを小を長をを早を六七月梅霖
止を物始を黴る俗示を梅雨をを黴梅

因音に似かよふ事ありハなるべし　梅雨を嗁て
方言とするなるべし
○明人滑稽をもつて能事とす食安居
して往々にして豊に易く隠に依て世を玩ぶ
この文面淳于髡齊を賜東方朔が対
なる如き滑稽固より此論ずるハ世代降て明の滑
稽ハ孔孟淫奔とも したりき　倭国の滑稽にあらざ
るものハ唐世までさし遠しとする所なり
○或人合集の梅下書るか仙之旅下より出し
その句もあしくさるこのところハ要るものとなる
ものり名の画ハ都てよし　假名離くする
亦稿しぬるも去し　細かハよみし

何と云く躯しさしなる筆あるべきなかりや
○菅相公菅右相府へ奉る書に曰文浅々しくして
語るなる深きしハ妄に今に近て書けるを語
るハ誕し是を考へて之れを叙して書きをも
或ハ筆なる如くして書たくもありけ誕の華
のよろしう佛説なるまゝまぬ方よりし　万物
流れハ律なし
○歌の叙句より跡句に秀でるべきなし　古人のはし
くいふれ十まで七跡句ぞよしもしるべけれ
○上句ハ下句を愛す下句ハ上句を憎む
上句の善き人もまのし　下句のよき善きもあり
うたれ上句ハ下句をもてなすハ下句ハ上句よ

[illegible]

○[illegible]ハ山海富饒の地市上商賈の際に小鮑を法彫越の狀[illegible]
[illegible]西海にある人面甲殼の[illegible]
[illegible]

○[illegible]字を特て[illegible]の字
[illegible]ある[illegible]の大鮑[illegible]慕
[illegible]師を慈道を慕親を
[illegible]

[illegible]あることもあるべき[illegible]
○[illegible]あるといふは固[illegible]
[illegible]神代下卷に幸[illegible]利[illegible]ある
[illegible]ハあるハ朝利いふハ多利[illegible]記
言音訓[illegible]新鄙語[illegible]雄勝[illegible]
○[illegible]人の強[illegible]の[illegible]龍の大風
[illegible]
北胡不首南飄婢遥浮遥二反旋風[illegible]や註
飄暴風暴ハ曬[illegible]千二千 ヨコサマ ヒカハク ややしハ[illegible]西
南北の風[illegible]脇[illegible]より發[illegible]
大風[illegible]

○大原女

雪霰は花よりも面白

あられは花の咲ぬる時

雪霰の聲聞て　沙門　宗祇

雪霰の電の音と聲と聞て　十如

雪はてゝは力の節所なるべし　宗長

○宗因は猛彊なる活潑は判禁なる博士

なれども其角は俳中なる仙者山風雪は損骨

白雪の在句の花くしてこの外の句に寄

遊ぶの外白雪の優きところなるべし

今は名の高き盈先生学者先師は

今古貫通の俳諧也

○五雜組云ふ草綱目謂ふ所は十生百芸茂

龍華冬實はの當ふ實あるべし

今は三千の物を實の佳高奇絶仙玄

を闡むの数千ふ物の人ふ

○也ふの書版は義惡相雜元孫の如

享保末年出版今尚存するの字畫委

曲に彫工精密完美紙亦厚白堅剛なる活

ふるべし今は書版粗巧淡薄應滅多

解ふ潤一字脫て一巻義理を亡ふ

剖劚利を射るが如ふ

○異國の宗漢なりしものの人々名を祀を惠
漢を習て兵士となす其妻羅漢に供する其
子漢書を授る奴合曰今日夫人傷を召て
十八羅兵士の供すみ官に法て兵士書を
黙せしむ人間秘して傳て爲笑
○むかし或席にて年十二三年の人舞て白
を舞 所合す專主さきみの人舞毎ふる
しき判を授て座を伏すこもりすゆ中
みなさ鳥獸器物食品のあふ次常
まるんまゆのしとあ置さもとく
ええさり七さり人の白いふ度
すふ今ふ進人のあつむ

○發句を作る先題を短冊に書て通
用ふる句を佛に進ぜ其葉ハ人也
物人も算りのらゆ物白作の
驗徒お用ふる聲てハ自化を感實ふ
ふ字なまま俗用ふ新味あり公の
ふ化を死活あり撫骨ふ奪脈をまと
いふもあり噴談の客易ちるもの
句の如字世俗人ふ俗も大ふ違次
ふ化字書ふ付ふの洞節
○雲ふいふ句事ふしふ就ふきふの書ふ味
あふ或真こをりふ大化化ふ乗化
ものきこふ吾ふ成ふ頭ふ多ふ仏羅虫

白もあるべきなり又北海常南天の
實の赤きもまたしかり十七八譬喩也
所詮鄙猥山吹牡丹の類百日紅
なども嗅れぬよりあるべの説し
○順和名抄に延喜式を盗の部に載壺五子林
に遊花西門豹の淫響に遊て劉子沈抑
とあり又西園和漢にも奸淫妖惑溺よりえ
たり今ハ方言に賊しく憎まれ
○家語卿の嗚欲六方首にも嗚呼今俳諧
ハ家内千也
○蠟ハ立夏小滿初芒種夏至を感ず
小暑大暑の節なるべしかること第巳の

飯食香嗅敵て食欲如ある中華料酒
蕎麦蠟く爾を情む酒器庖厨の音を
先ちに曲方表家の氣を嗅て改おく
皆ちうちうさみ料理さと稱せられ盃中
まろうしをすくふ寝美のりうの
み蜜たのう性情なるや行ふるて知人敏
敏の利蕎麦きし蠅の嗜も多き將一夏
さうかれしるいとよし
まうきまうの酒のうまきを又
○俳諧ハ仙るものの詳し天地人物変
山川霧谷禽獣草木牡牡雌雄万象
書景長經方圓面壁法一句を拵て成

佛ゝ祝あるい書ゝ日陰（オト）ゝ　一棒ゝ手指
北剛寺を喫ゝ也ゝ　ゝ分佛ゝ意ゝい
ゝゝゝ也蔓ゝ藤ゝ　ゝ浮ゝ

佛階蔓藤巻尾　西蓮寺　角醒秀億英

○佛階を乗る身の顔鏡して書
を續の用ゝ　ゝ佛右ゝ　ゝ
ゝ方言鄙　居を解ゝ

○妙人目夢の同ゝ生食ゝ
ゝ佛ゝ　ゝ
ゝ

○古居ゝ蹴ゝ　ゝの向を人ゝ芭蕉養
ゝ禅　修ゝ悟道ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ
味ゝ　ゝ面白ゝ　屋錦　泊ゝ
ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

○人麻を喰るものを明人一の花瓶の
亟卿伸の渇[illegible]甚つまるを見て
座より脇る[illegible]
[illegible]を見て[illegible]
亦脇る[illegible]亟醒主人の熟睡をえ
てみ[illegible]
[illegible]亟醒[illegible]
いまし竟[illegible]亟醒[illegible]
めて客を見て[illegible]
○家の造化巧[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]自他一[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
白花[illegible]雪[illegible]
と腹[illegible]
[illegible]

○無名物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○發願文多種分わらて言葉ふかく隨
[illegible]
[illegible]

○[illegible]このうちに六方の三寶
[illegible]中ほの船乃船を執する人ふ
今は世の方をいとまれやすくた
[illegible]達摩宗をいふ黒いろつけて
讃[illegible]みこのうちをうむ人ふ中ほの船を
[illegible]近[illegible]見ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○初ものをきるとき[illegible]
[illegible]
教[illegible]

○佛法の魔をもすくへきふ人の師となんの色
是[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○いとゝ病あるとき[illegible]
中風ふ風と中るゝ訓む[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て中風と数[illegible]
[illegible]中風[illegible]赤[illegible]
[illegible]域[illegible]今[illegible]不同のくれ[illegible]
況[illegible]

○[illegible]年[illegible]
其角[illegible]
[illegible]

○[illegible]晴[illegible]
[illegible]晴の日何
[illegible]東西[illegible]
人の癖[illegible]人の[illegible]
[illegible]

[illegible]

○祖来曰[illegible]物[illegible]
[illegible]法[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]亦[illegible]
[illegible]過[illegible]

○或人の話に朋友曰[illegible]過[illegible]或[illegible]
[illegible]半[illegible]
[illegible]親[illegible]
[illegible]遭[illegible]中[illegible]

あるは罵りあしくは利達をいふやうなるもなく
これまたいみしくの事なるへし
○利を好人色をこのむより多く色を好む人
酒をこのむより多く酒を好人より
多くは碁を好人書を好より多しといへり
その躰ら此の事なるへし
○末世よしては好人を論するものの和漢通用之
ものしからし　杜撰をとの嘲笑侍り
その謂る人を辞といへるもあるまた道を
錬磨しそ見解をいはむとおもへるは

節巻中 歌仙二 寄生我

名月や菊まつまへの名たゝく
菊まるるの暖簾にかゝる
忘れき扇もなれは佃りけて
いそかぬ旅の起き出し川
あれまとつゝく流れる舟の縁
近江佃く筏まき椿松
見るゝゆまゝ姑し大和茜
なほ近江人の館まゝ入
菊されは物のよまぬ後めくし
二階せんを夢みつる山路

古 青峨
秀億
吐雲
朱宇
銖我
桃卒
逢虚
菜桜
杜風
林花

かいなむ歟と涙を流き行北風
雪も散すなるひなる泥
おとゝしの秋なるとも雲北中
まゝき都や酒なるし荒
きつゝきの四五羽の梅花
なりしをなる一生
新しき蕗れ芽蘖孤身
敵なるる雲
なるれ弾る雲剣を踏なる
雪
雲なる人帯燈なる朝北戦
先くなるあるき

雪
雲
雪
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲

いなるなる雲なる人雛縮細
師なるれ庭なる特朝北雑
義早なるなる人亦こも良て
山なるなる川角北雲反
河事なる人亦なる人亦なる笠
吸なるの雲なる反なる反
川北の雲北なる反なる笠
暗なるなる鬼奇なる
雲なるれ仕亦北なる亦なる
なるなるの暗なる海の形な国
相亦雲雷偏なる蛇なるの
基壁北亦なるの毛壁なる迎な

雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲
雲

花の雲ゝ[illegible]を白し　陸雲

たゝ深の　たゝ[illegible]　寿

押あけて花一瓣は牡丹の　春来

さうんもりて　[illegible]　秀億

[illegible]今度の殿は塔當て　百寿

牡丹[illegible]　[illegible]　仝

黒くゝ[illegible]習を乾す　信

晒[illegible]　桃　姫子

町前の鶴[illegible]　寿

[illegible]　鐘　信

あ[illegible]　箱　寿

[illegible]を知[illegible]　炊　信

毎齋歯磨は香[illegible]　寿

[illegible]　信

[illegible]　松　信

五銭半　両の[illegible]　寿

月は威弓小[illegible]　信

さんまとごちる　鍵は　腸　寿

徳[illegible]　信

[illegible]　杉の湖　仝

[illegible]　海雀　信

[illegible]の[illegible]　寿

[illegible]　信

元ちからめる身揚げ襟　寿
夢解は悪き撰ぶ手思ひ出　信
雨ましく讀て帰る嫁　寿
らんらんの丁子頭は長くし　信
土塊八罪と偽る馬ノ鹿　寿
きつの雪ま囀さく茂りやし　億
一勝する鎌かしくて寝る　寿
海をとき山生大杉るの作る　信
露の中よりも土佐り更科　寿
さー其角のころをのめて鳥かり　、
花にま隠てる拝め茶　信
佛顔にあく白なる若きあけや　寿

筆始め状の別め　薫白　信
會指み隠みの花をあけめ万　寿
市仁いちるのすきいけんあこく　草

旹明和五戊子歳中元日

東都　俳匠

矢目菴角醒居士秀億書

下巻止